

2 教学改革計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）						主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等	
				2020	2021	2022	2023	2024			
②学部等の新設・募集停止・改組・定員管理等	入学定員充足率 ・表現文化学科8割以上 ・こども学科8割以上	学長 表現文化学科長 こども学科長 事務局長	表現文化学科定員充足率(%)	入学者数	22	23	22	23	20	・表現文化学科 定員の8割以上確保に向け努力する。 ・こども学科 全県的に保育者（保育士、幼稚園教諭）を志望する生徒が減少傾向にあることから、保育者の魅力ややりがい、処遇改善状況を広く伝えながら学生募集に結びつけていく。	・表現文化学科では、2025 年度に向け 25 名の入学者を確保できそうである。今後は入学定員 30 名を充足すべく努力していく。 ・こども学科においては、各高校や会場における進学説明会において、保育者のやりがい、魅力の発信に努めた。 ・オープンキャンパスにおける学科説明や体験授業の内容の改善を図った。 ・本学 Web ページのブログや SNS の更新、さらに現在はデザインを変更中である。 ・高校訪問において、各校の進路指導担当者に、保育者の待遇向上も含め、魅力を伝えた。 ・各種イベントに学生共々参加し、学生の姿を見せることにより、魅力発信に努めた。 ・NHK、いばキラ TV へ投げ込みを行った。
				入学定員	30	30	30	30	30		
				入学定員充足率%	73.3	76.6	73.3	76.6	66.6		
			こども学科定員充足率(%)	入学者数	85	73	64	70	56		
				入学定員	100	100	100	100	100		
				入学定員充足率%	85	73	64	70	56		
			※各年度 4 月 1 日 時点の実績								
③カリキュラム改革・キャリア支援等	a)カリキュラム改革 豊かな表現力と課題探究能力の育成と向上 成績評価面における学生の質の保証 「表現力・コミュニケーション力」養成のための科目強化	学長 表現文化学科長 こども学科長 表現文化学科長 こども学科長 表現文化学科長						・表現文化学科 さまざまな科目や授業外の活動での体験・経験などを通じ、表現する機会を数多く設ける。 ・こども学科 授業内容を工夫し、学生の興味関心を喚起し、学生が主体的に学べるようにする。 ・引き続き、教務委員会の設定した成績評価割合（優以上は 6 割以下、秀は 15%以下）を目安とする。ただし、少人数クラスや科目の特性により絶対評価を採用する場合もある。 ・学生の卒業時における質の保証を強化する。 ・評価を指導に連動させることで、学生の質の向上を図る。 ・令和 6 年度の新設予定科目（戯曲に親しむ）に加えて、実用的な文章を書く力を養う科目などの開設を検討する。	・さまざまな取り組みの成果で、学生の表現力は全体的に向上している(ビブリオバトルの際、主催者側の感想を求めると、レベルが高いとの評価)。 ・令和 5 年 4 月のこども家庭庁の発足に伴い、こども学科の関連科目の内容等に追加加除等の見直しを図った。 ・成績評価割合の目安はほぼ守られている。 ・質保証の面では、就職先が安定・多様化しながらもいわゆる「よい企業」に内定する学生数が増加傾向にある。 ・実用的な国語力という意味で、日本漢字能力検定協会の「文章検」に合わせた科目を設定することを検討中である。		
	長期履修制度への対応 b)キャリア支援 キャリア形成ゼミのさらなる内容の充実 短期インターンシップの実施	こども学科長 表現文化学科長 こども学科長							・入学前や入学時におけるオリエンテーションにおいて、制度の趣旨や内容の理解を深め、活用しやすい環境を整える。長期履修生が計画的に学べるようサポートを行う。 ・キャリア形成ゼミの内容の見直しを行い、より有用性の高い内容を目指す。 ・「こども未来学」の内容の一層の充実を目指す。 ・ハローワークとの連携強化・校内での企業説明会を積極的に開催する。（保護者にも一緒に説明	・オープンキャンパスにおいて制度の説明、P R を行った。 ・キャリア形成ゼミⅠ・Ⅱの内容の精選 指導体制の見直しによる指導力強化 ・こども未来学の授業内容の見直し、改善 ・ハローワークの新卒応援ジョブサポーターと綿密に協調しながら学生の意識付けを行なってい	

	実習対策の強化	表現文化学科長 こども学科長							<p>を聞いてもらいたいという企業からの申し出もある。）</p> <p>・那珂市役所関連場所でのインターンシップ、民間企業でのインターンシップなどに学生を積極的に参加させていく。</p> <p>・外部機関や幼児教育施設等から講師を招き、今求められている幼児教育、保育について学びを一層深め、社会のニーズに対応できるようにする。</p> <p>・実習受け入れ園との連絡を密に行い、より連携・協働を深めて実習の充実を図る。</p>	<p>る。また、企業の説明会を学内で積極的に開催している。</p> <p>・那珂市職員による本学授業における講話（子育て支援）</p> <p>・那珂市菅谷保育所研修会における本学教員による研修講師（佐藤「不適切保育」）</p> <p>・那珂市子育て支援センターにおける学生ボランティア活動</p> <p>・各種実習における巡回指導時の園へのPR、共通理解・連携強化</p> <p>・茨城県保育士養成校連絡協議会への参加</p>
	c) 法人内の連携 大成女子高校との連携強化	学長 表現文化学科長 こども学科長							<p>・高大連携授業や大成女子高生を対象としたオープンキャンパスの実施などにより、本学の魅力を伝えるとともに、高校教員との連携を強化する。</p> <p>・大成女子高におけるキャリアデザインの授業について、高校教員との連携・協働を強化し、カリキュラムや授業内容、支援方法を見直し、より質の高い教育を目指すとともに、本学への入学意欲の向上につなげる。</p>	<p>・大成女子高校生対象のオープンキャンパス実施</p> <p>・大成女子高校におけるキャリアデザイン授業の実施、授業内容の充実化</p> <p>・大成女子高校担当とのコミュニケーションの深化</p>
	5つの附属園間との連携強化	こども学科長							<p>・各園の園長はじめ教職員の連携、協働を深め、附属園における実習の一層の充実を図る。</p> <p>・各園の園内研修に協力するとともに、学生をボランティアとして園の活動に派遣し、各園の教育・保育の向上に資する。</p> <p>・各園における教育的支援を要する子どもの発達支援について、引き続き重点的に取り組む。</p> <p>・大成学園幼稚園と協働し、子ども子育て支援センター機能として「ぽぽ」の活動の充実に寄与する。</p>	<p>・附属園連絡会の継続実施</p> <p>・各附属園からの要請による園内研修講師</p> <p>・各附属園への学生ボランティア派遣</p> <p>・子ども子育て支援センターとしての機能の強化</p> <p>・各ゼミ等が交代で「ぽぽ」の活動に企画・参加するなど、学生の意識高揚に役に立った。</p>
	d) 中退対策 中退率 表現文化学科4%以下 こども学科5%以下	表現文化学科長 こども学科長	表現文化学科 中退率(%)	0.0	4.44.	4.65	0.0	6.52	<p>・日常的に学生を密に観察するとともにコミュニケーションを図り、教員に気軽に何でも相談できる関係の構築に努める。</p> <p>・キャリア形成ゼミや「こども未来学」、実習指導等で保育者を目指す意志の強化、目的意識の明確化を図る。</p>	<p>・グループ担任および担任外教員によるサポートにより、全学生を全教員で支援していくための体制がとれている。</p> <p>・卒業生（先輩保育士）、附属園長等による講話、附属園における演習を通して学ぶ意義や保育士の在り方などについて学びを深められた。</p> <p>・学科研修会では、人間関係づくりや共通の目標に向けて互いに高めあっているような雰囲気づくりができた。</p>
			こども学科 中退率(%)	1.84	3.25	2.22	2.27	2.48		

	e)学生相談	表現文化学科長 こども学科長							<ul style="list-style-type: none">・定期的にグループ担任の個別面談を実施して学生の状況の把握に努める。・大学としての相談体制を学生に周知して活用を促す。・学科、グループの枠を越えて、全教員で連携して学生の個別相談、支援を行う。	<ul style="list-style-type: none">・学内での様子をみて学生との面談を設定するだけでなく、なるべく早期に問題を抱えている学生に対応するため、入学式直後や父母の会学科別懇談会などの機会に家族からの情報・要望を聴取するように努めた。・グループ担任、担任外教員による定期面談および日常的な面談の実施・親と連絡を取り合い、学生の様子を共有することによる連携強化・必要に応じて家庭訪問の実施
	f)環境と施設等 キャンパスアメニティ施策の充実	事務局長							<ul style="list-style-type: none">・学生の利便性向上を図るために食販の回数を増やしたり、スマートショップカスミの品数を増やすなどについて検討する。	<ul style="list-style-type: none">・カスミスマートショップの陳列棚を2つから3つに増設、飲料水用の冷蔵庫を増設し全体の品数を増加し、学生の利便性向上を図った。また、週1回「焼きたてパン」の販売を開始するなど、キャンパスアメニティ施設の充実を図った。
	g)通学手段 スクールバス利用者の確保 路線バスの利便性向上	事務局長							自家用車利用者が約 53.6%、スクールバス利用者が約 21%、茨城交通路線バスが 7.7%、JR 水郡線利用者が 7.1%、自転車 4.2%（2023 年度調査） 今後ともスクールバス利用者に対し利便性向上を図り、利用者増加を図っていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・自家用車利用者 52.2%、スクールバス利用者 18.4%、茨城交通路線バス利用者 11.5%、JR 水郡線利用者 11.5%、その他（自転車・親送迎等） 6.4% （2024 年調査）・通学手段に大きな変化はない。スクールバスの適切な運行回数を見直し、運行回数の削減を図った。・乗車券をキャッシュレス、電子化し、いつでも購入できるように改善、利便性を向上させた。
	h)地域との連携 那珂市との連携強化 近隣市町村との連携	学長 こども学科長 表現文化学科長 事務局長							<ul style="list-style-type: none">・子ども子育て支援センターとして、地域の子どもや保護者を受け入れ、子どもの発達支援を行う。・県立高校において出前授業を実施する。・那珂市「保育施設を見に行こう」ツアーへの参加を学生に呼びかける。・那珂市総合センター「らぼーる」を借用して学科発表会を開催することにより、那珂市にこども学科の取り組みを広める。・那珂市立図書館でのインターンシップ、催し物などへの協力に積極的に取り組む。・本学科教員が、那珂市内の小中学校における研修会講師を務めることにより、地域の学校の教育力向上に寄与する。・ひたちなか市においても保育の関係で本学と連携していく動きがある。・地域クラブ事業の発足を 2023 年度から実施。主なものは吹奏楽・バレーボール。2024 年度からはダンス・バスケット等と増えてきている。	<ul style="list-style-type: none">・子ども子育て支援センターとして、地域の子どもや保護者を受け入れ、ふれあい体験（演習）を行う。（「ぽぽ」「ポップ」等）・水戸農業高校の水田借用（田植え体験）・太田西山高校における出前授業・那珂市総合センター「らぼーる」を借用してこども学科発表会を実施・那珂市子ども課主催の保育施設ツアーに学生が 7 名参加した。・那珂市子育て支援センター（つばみ）の子育てフェスタにボランティアとして 5 名参加した。 <ul style="list-style-type: none">・2025 年 3 月 25 日に、ひたちなか市と包括協定を締結し、今後、教育や保育、子育てを中心に連携していくことになった。 <ul style="list-style-type: none">・地域クラブについては、吹奏楽、バレーボール、スキー、ダンス、バスケットボール、製菓が地域クラブとして活動している。

3 学生募集対策と 学生数・学納金等 計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）						主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価
				2020	2021	2022	2023	2024		
	a)入試広報の充実 ①オープンキャンパスや入試相談会の充実 ②入試情報サイトを高校生向けに構築し資料請求数の増加を図る ③メディアへの露出強化								<ul style="list-style-type: none">・オープンキャンパスを2回増やし、毎月実施する。・本学のPRに学生を活用する。・引き続き、Web上から入試に関する資料がダウンロードできるようにし。受験者の利便性を図っていく。・ホームページ上に、デジタルパンフレットを掲載し、Web上から資料提供できるようにし、資料請求者の利便性を図った。・今後ともメディアに取り上げられるような企画を実施するとともに、メディアへ情報提供していく。	<ul style="list-style-type: none">・オープンキャンパスを毎月実施したが、一桁の参加人数の月もあった。少人数の参加時にはオープンキャンパスの内容を再考する必要がある。・Webサイトから入試に関する情報は見ることが出来る・ホームページ上でパンフレットの閲覧ができ資料請求もできるようになっている。・メディアに取り上げられるような企画が少なかった。提供不足。もっとアピール、アナウスが必要。
	b)学生募集の強化 ①高大連携の推進と内部進学率の向上 ②通信制高校も視野に入れた訪問強化 ③オープンキャンパスの参加者増加により、入学者増加を図る。	学長 表現文化学科長 こども学科長 事務局長		評価指数（～2023 実績・2024～見込み）					<ul style="list-style-type: none">・内部選抜による入学者数を増やすため、高校教員との連携・協働を深め、大成女子高生対象のキャリアデザイン授業やオープンキャンパスの充実を図る。・地域の諸行事等到大成女子高生とともに参加する機会を増やし、高校生の本学についての認識を深める。・通信制高校へ進学する生徒が増えていることから積極的に訪問し、さらなる学生の確保を図る。・オープンキャンパス参加者の満足度向上が入学者増加につながることから、内容の充実を図り参加者の増加を図る。 また、教職員だけではなく、本学の在学生や卒業生などについても参加していただき、本学のよさなどを説明していただく等、内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・大成女子高校におけるキャリアデザイン授業の実施・大成女子校に対してのオープンキャンパスを実施、高大連携による授業を実施するなど、内部進学率の向上を図った。・授業の関係上、大成女子校と一緒に活動はできなかった。・通信・定時制高校への高校訪問を実施し学生の確保を図った。さらに積極的な活動が必要である。・オープンキャンパスにおいては、体験授業、講話などを実施し、参加者の満足度の向上は得られていると感じている。また、本学説明会やオープンキャンパスでは在学生の活用も積極的に図った。・参加人数に応じた、内容に対応するなど、さらなる改善を図っていきたい。
				2020	2021	2022	2023	2024		
			大成女子高校からの進学者数	(表現) 9 (保育) 25	7 24	7 12	2 15	6 17		
			高校訪問数	186	145	154	120	138		
			オープンキャンパス来学者数内訳 (表現/保育)	185 30/155	252 68/184	274 52/222	235 70/165	234 76/158		
	c)入試制度改革 ①志願者に対応した新たな入試制度の検討	学長 表現文化学科長 こども学科長 事務局長							<ul style="list-style-type: none">・引き続き、「なでしこ選抜」の入学金免除制度の活用により、早期に入学者を確保する。	<ul style="list-style-type: none">・受験者の良さを引き出し、本学への入学の意志を高める対応

	d)学生数増員計画	学長 表現文化学 科長 こども学科 長 事務局長	入 学 者 数 計 画		2020	2021	2022	2023	2024	・表現文化学科は、入学定員 30 名であり、30 名 の入学生確保を目標とする。 ・こども学科は、入学定員 100 名であり、最低 95 名の入学生確保を目標とする。 ・通信制高校にも訪問を行い、本学の P R を行 い、学生を確保する。	・表現文化学科 20 名（充足率 66.6%）、こど も学科 56 名（充足率 56.0%）で直近 5 年間で 最も低い充足率、厳しい状況である。 ・表現文化学科においては充足率向上に向け、 表現力、資格(図書館司書、メディカル秘書)、 個性尊重に重点を置き取り組んだ。 ・こども学科においては、定員に届くよう学生 募集活動に努めているが、他の保育士養成校同 様年々入学者が減少しているため、中学生の保 育体験などを他の機関と共同で実施した。
				表現文化 学科	22/30	21/30	22/30	23/30	20/30		
				こども学 科	85/100	73/100	65/100	70/100	56/100		
				合 計	107/130	94/130	87/130	93/130	76/130		
				入学定員 充足率	82.3 %	72.3%	66.9%	71.5%	58.4%		
			※2021～2022 は入学者数/定員を記載								
e)学納金 改定の検討を行う	学長 事務局長							他大学の状況等を見ながら、学納金改定の検討を 行う。	常に、他大学の学納金を把握しながら、対応し ていく。2024 年度は変更なし。		
f)奨学金 ①高等教育の修学支 援新制度への対応 ②入学金免除制度の 適正な運用	学長 表現文化学 科長 こども学科 長 事務局長							・修学支援制度について、学生に周知を行い、制 度に関する理解を深め、学習意欲、資格取得への 意欲を高めるとともに学生生活を送れるようにす る。 2024 年度確定者 28 名（1 年生 11 名、2 年生 17 名） ・早期に優秀な学生を確保するため、引き続き、 なでしこ選抜など入学金免除制度を設け、早期に 優秀な学生の確保を行う。	・修学支援新制度について制度内容の理解を深 め学習意欲の向上を図った。 ・入学前、入学後における制度の説明、学習意 欲を高める指導、奨学金の有効活用および責任 をもって返却することについて指導した。 ・なでしこ選抜入学者 4 1 名。今後も制度のア ピールにより学生確保を図っていく。		

4 人事政策と人材育成、人件費の削減計画	中期目標	担当責任者(役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）						主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
			専任教職員数	2020	2021	2022	2023	2024		
	a)教職員の適正配置 「短期大学設置基準」を遵守した設定人数に基づき、最適教職員数を確保	学長 表現文化学科長 こども学科長 事務局長	基幹教員	19	18	18	17	16	・短期大学設置基準を遵守した設定人数に基づき、適正に教職員を配置している。	・短期大学設置基準を遵守した設定人数に基づき、適正に教員が配置され、きめ細かい学生への支援が行われている。
			専任職員	11	12	12	8	8		
	b)教職員研修（SD・FD）の強化 学生への適切かつ的確な対応ができる教職員の人材育成	学長 表現文化学科長 こども学科長 事務局長							・学科内で、テーマを設定して学び合う場を設定することにより、教員の資質向上を図る。 ・教育経験豊富な教員が多いことを強みとして、学科内の OJT 機能を強化する。 ・教員および事務職員に必要な知識および技能を習得するとともに、資質・能力向上のための研修を、FD・SD 委員会を中心に計画する。	・学科会議、実習委員会が研修の場となっている。また、日常の研究室での話し合いが OJT となっている。 ・学科会議においても FD を行っている。教授会後に定期的に SD、FD を実施した。 ・教員および事務職員を対象にテーマを設定して実施できた。テーマとして「認証評価の第 4 評価期間で求められること」、「AED を使用した心配蘇生法」などを取り上げた。
	c)人件費比率の低減 帰属収入に対する学納金等収入比に改善	学長 事務局長							2023 年度の人件費比率は、66.1%と本学園の中期計画の目標値である 60%以下を上回っている。原因は、収容定員の未充足のためであり、特色あるオープンキャンパスや高校訪問、進路説明会への参加など教職員一体となった学生の確保を行なった。	2024 年度の人件費比率は中期目標値の 60%を上回り、66.7%であった。

5 経費削減計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）						主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024		
	① 管理経費は、毎年目標数値を設定して節減を図る。 ②教育研究経費は、教育研究費比率（教育研究費／経常収入）が 30%前後となる範囲で目標数値を検討する。 ③ 省エネ施策の実施により、光熱費目標を数値化して節減を図る。	学長 事務局長							① 2024 年度 管理経費目標：25,430 千円 (2023 年度実績 26,006 千円) ② 2024 年度 教育研究経費目標：68,873 千円 (2023 年度実績 78,020 千円) ③ 2024 年度 電気料金目標：7,000 千円 (2023 年度実績 8,647 千円)	①2024 年度 管理経費 26,929 千円 広報費増加により目標を上回った。 ②2024 年度 教育研究経費 67,300 千円 研究費、実験実習費の削減により目標を達成している。 ④ 2024 年度 光熱費 12,442 千円 (光熱費 2023 年度 11,497 千円) 電気料金値上げによる増加

6 施設整備計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）					主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等	
				2020	2021	2022	2023			2024
	a)施設計画 計画的に老朽化した 施設のメンテナンス を図る	学長 事務局長							<div>① 体育館における鳥獣被害防止工事については、今年度鳥獣被害がないため見送りとした。</div> <div>② 1号館の避難誘導灯交換工事は、今年度中に整備する。</div> <div>③ 令和6年度より令和10年度まで（那珂市公共下水道事業受益者負担金）施設利用権が発生した。（令和6年度分 1,197,890 円、令和7年度～令和10年度 短期・長期未払分の処理になる）</div>	<div>・ 1号館避難誘導灯の交換工事は完了した。</div> <div>・ 令和10年まで分割納入する。</div> <div>・ 下水道利用時期を引き続き検討する必要がある。</div>

7 外部資金の獲得・ 寄付の充実・自己収 入の確保	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（～2023 実績・2024～見込み）					主な取り組み（2024 年度）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等	
				2020	2021	2022	2023			2024
経常費補助金の獲得 強化	① 経常費補助金、 特別補助金の獲得額 増に向けて、該当項 目の改善を測る ②同窓会・父母の会 と連携し寄附金募集 を検討 ③科学研究費補助金 や茨城県からの委託 事業の積極的な確保	学長 事務局長	補助金獲得額	31,195	32,987	29,503	30,894	35,000	① 2024 年度は、経常費補助金：35,000 千円予算見 込み。 経常費補助金の額の算定については、学生数によ るため、今後とも本学全体をあげて、学生の確保 を図っていく。 ② 父母の会から 2023 年度防災用品購入に援助。 2024 年度より防災用品代は学生より納入しても らい、防災用品を入れる物置を大学側で設置し た。 ③ 教員の教育研究活性化、地域社会との連携強化等 により、科学研究費補助金を教員 4 名が獲得。本 年度配分額 1,850 千円。	・防災用倉庫を設置し、父母の会からの保存 水、簡易トイレ、保存食クッキーを保管し た。 ・また、学生が購入した防災用品を保管して いる。 ・教員 4 名により科研研究費補助金 1,850 千円を獲得した。
			修学支援事業	11,025	17,420	20,420	18,002	12,969		
			施設補助	20,491						
				280	1,580	1,500	1,800	1,850		